

MCR 学級「こころのバリアフリー」に関する講座報告書

1 目的

- ・ 障がいのある人もない人も、ともに生活できる社会を実現するために必要なことは何かを考え、自らの子育てや家庭教育力の向上のための良い機会とする。
- ・ MCR 学級生の学びの場を広げる一助とする。

2 日時・会場・参加人数

日時 : 令和7年 12月12日(金)10:00~12:00

会場 : 松戸市民会館 301会議室

参加人数:16名(MCR学級生、小学校家庭教育学級生)



3 内容

(1)開会 主催者挨拶

(2)講演

演題「個性の違いを認めて尊重しあう社会とは」

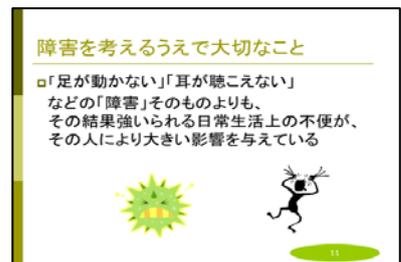
講師 社会福祉法人まつかぜの会

社会福祉士

江澤 嘉男 氏

(3)質疑応答

(4)閉会



4 概要

「障害って？」の問いから始まり、ひとのために創られる社会(ひとに便利な建物や設備・必要となる決まりのある社会)の中で、障害を「機能・形態障害」「能力不全」「社会的不利」の三つのレベルに分け説明がありました。この中でも「社会的不利」に関しては取り除くことができることであり本日の講演全体の焦点でもありました。

障害を考えるうえで大切なことは、「障害」そのものよりも、その結果強いられる日常生活での不便が大きく影響を与えているということを理解することでした。障害があることでの、困りごとや不便さについて、「車いすの人」「耳の聞こえが悪い人」「薬の副作用で頭が重い人」「記憶にとどめておくことが難しい人」「コミュニケーションが苦手な人」について示され、想像できるようできていないことを具体的に話されました。

障害は個性が大きく、その程度は様々で、これらは個性であるとの認識と、具体的な生活のしづらさは、環境との関係が大きいこととの理解が必要とのことでした。「本当に頑張ってもできないものが障害であるが、それを個性ととらえ、いろいろな環境でその人の得意を生かすことはできると考えることができる。」そんな社会になってほしいということでした。

最後に、「単なる福祉サービスの提供ではなく、地域(地域力)を創ることが私たちの目指すところ(仕事)」と述べていました。

5 参加者の主な感想

- ・ 具体的なエピソードを知ることで、暮らしづらさを感じている人が多くいると理解できました。“平均的な人”が作った現在のルールを変えていくことがこれからの日本の課題だと思いました。
- ・ 「知らないこと」が双方にとって不自由なっているということを知ることができてよかった。それに伴う社会的な困りごとが大きな障壁になっていることも知ることができ、自分自身の考えをより深めることができた。
- ・ 「一人ではなくチームで」という言葉が胸に刺さりました。一人ではなく周りの人達に相談しながら生きていきます！